

## 海の道・陸の道と赤坂坊山石塔群

### I. 古代・中世の佐田岬半島「海の道・陸の道」

#### 1. 海の道

##### ①古代の瀬戸内海

古来難波と筑紫(大宰府)を結び、さらに大陸へ通ずる海上交通の大動脈であった。

沿岸地域は、大和政権の兵士・軍船などの供給地となり、また、大陸文化も定着する地域となった。

##### ②古代の豊予海峡

日本書紀に「速吸之門」(速吸の瀬戸)と言われる難所が見える。

瀬戸内海と宇和海を仕切る重要な海峡であり、佐賀関か佐田岬半島のいずれかに関所が置かれ、太宰府発行の通行証により管理されていた。

[続日本紀によると]

奈良時代のはじめ(716年)、伊予・豊後二国の界には戌(じゅ:屯所)が置かれ、往来は許可されていなかったが、五位以上の使者に限って、それを認めてほしいという大宰府からの申請があった。その後、朝廷からそれを許可されている。

#### 2. 古代海の道

①律令国家は、行政区画として五畿七道に区分した。

②七道は、同じ名称の官道(駅路)として、都と国府を結ぶ幹線道路でもあった。

#### 3. 南海道

律令制下の七道のうち南海道は、紀伊国、讃岐国、淡路国、阿波国、讃岐国、伊予国、土佐国である。

官道(駅路)には約16km(30里)ごとに駅家(うまや)が置かれ、馬が用意されており(南海道の場合は5匹)、官人のみがこれを使用していた。

南海道の位置を示した地図が描かれています。  
(著作権保護のため、表示していません。)

#### 4. 海上輸送への転換

古代海の道は、造船・航海技術の未熟さなどから航行の安全は担保されず、海難時のリスクが大きかった。大量の物資を運搬する場合、陸路で都に納めるよう指示していた。

伊予国などから都に物資を納める場合は、最低限の海上輸送が必要だったことは言うまでもない。

一方、船を利用すれば、輸送期間は短縮され、さらに大量輸送が可能であり、海上輸送は8世紀から活用され、9世紀になると人の往来も多く海路が利用されるようになった。

宇和郡、喜多郡からの貢物も海上輸送を利用していただけら

#### 5. 西海道の港から八幡浜へ

廃止された駅路数の記録から想定すると、八幡浜には、駅路に繋がる支線があった可能性がある(愛媛県史)。

頻発する海賊の被害を避けるため、西海道(九州)の港からの八幡浜の当りに入港し、ここから陸路たどったとされる(類聚三代格:796年)。

佐田岬半島の港で風待ち、潮待ちしながら航行していたことは充分考えられる。

#### 6. 古代・中世の船

船の構造を示した図が描かれています。  
(著作権保護のため、表示していません。)

準構造船は、丸木舟を船底にして、舷側板や堅板などの船材を加えた船で、古墳時代から室町時代まで使われていた。

#### 7. 中世の道

中世になるとさらに海上交通は発達していった。

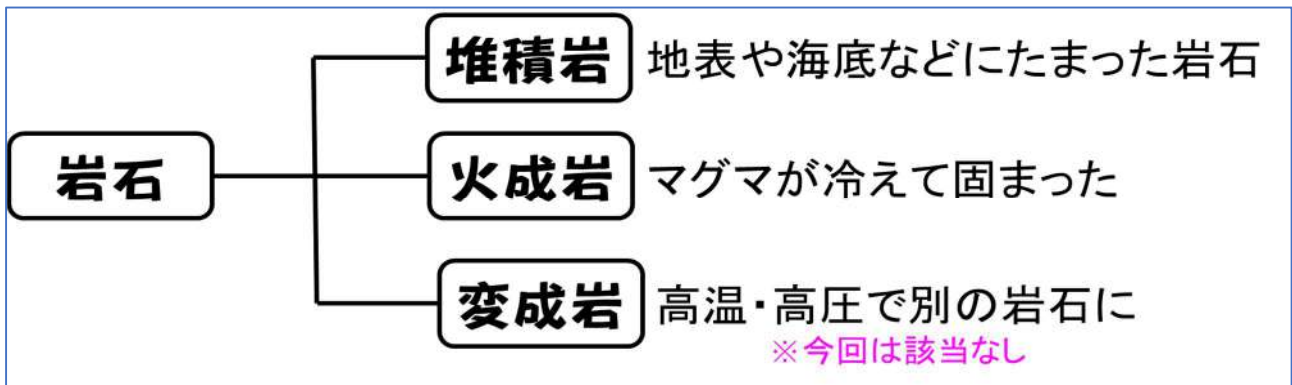
佐田岬半島周辺の海路・陸路については資料に乏しいため、古い石塔の設置場所に注目して中世の道を推理してみたい。

特に、初期に出現した凝灰岩製の石塔(伊予の白石とも呼ばれている:鎌倉時代～南北朝時代)の分布から、ルートを探ってみよう。

## Ⅱ. 石材を確認する

### 1. 岩石の種類

岩石は、堆積岩、火成岩、変成岩の3種類に分類される



### 2. 堆積岩

地表や海底などにたまって固まった岩石



#### A. 火山碎屑岩（堆積岩）

堆積岩に関する絵が描かれています。  
(著作権保護のため、表示していません。)

### a. 凝灰岩

- ・火山灰(2mm 以下)が堆積し固まった岩石。
- ・構成する粒子は、鉱物と火山ガラス。
- ・火山岩が含まれていれば火山岩と区別できる。

### b. 溶結凝灰岩

- ・カルデラ火山など超巨大噴火による火砕流が堆積した岩石。
- ・高温で大量の火砕流によって、軽石がレンズ状につぶされているものが多い。

### c. 凝灰角礫岩、火山礫凝灰岩

- ・凝灰角礫岩は、4mm から 32mm の角張った火山礫を、火山礫凝灰岩は、4mm 以下の火山礫を含む岩石。
- ・火山礫は、軽石やスコリア(黒色の軽石)、火山岩片など。
- ・礫を埋める基質は火山灰など。

## B. 火成岩

マグマが冷えて固まった岩石

火成岩に関する図表が描かれております。  
(著作権保護のため、表示していません。)

### 火山岩

火山の噴火によりマグマが地表付近に現れることで、急冷してできた岩石。火山岩は斑晶と細流の石基からなる斑状組織を示す。

### 深成岩

マグマが地下深くでゆっくり冷えて固まってできた岩石。粒の大きさが揃っており、大きく成長した結晶がひしめきあった等粒状組織を示す。

### Ⅲ. 赤坂坊山石塔群

赤坂坊山石塔群には、佐田岬半島に運ばれた中世石塔の種類・石材の全てを網羅している。

#### 1. 石塔の種類

##### ①五輪塔(ごりんとう)

平安時代後期に我が国独自に密教系の塔として作られたもっともポピュラーな石塔。

##### ②宝篋印塔(ほうきょういんとう)

8世紀に中国で作られたものが原型で、我が国では鎌倉時代以降に五輪塔とともに流行した。

##### ③層塔(そうとう)

仏教の伝来とともに作られた木造層塔を石塔にしたもので、奈良前期から作られた。

##### ④宝塔(ほうとう)

宝塔は、法華経の教義に基づく密教系の塔として平安時代後期から作られた。

#### 2. 石材の産地

石材の産地に関する地図が描かれています。  
(著作権保護のため、表示していません。)

石塔の絵が描かれています。  
(著作権保護のため、表示していません。)

### 3. 石材の種類

#### ①火山碎屑岩

##### a.凝灰岩(産地:愛媛県中予)



乳白色の基質に白色の斜長石(花崗岩類の粒)が混ざっているのが特徴である。産地は松山太山寺周辺で、約1500万年前の石鎚山(カルデラ)の噴火による火山灰の堆積物と考えられている。

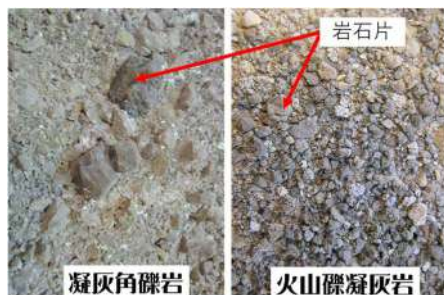
##### b.溶結凝灰岩(産地:大分県中南部)



暗灰色で気泡が多く軽石や安山岩の礫を多く含み、軽石がレンズ状に引き延ばされている。

9万年前の阿蘇山の火山活動によって形成された火砕流堆積物で、産地は大分県南部である。臼杵石仏や高千穂峡などが有名。

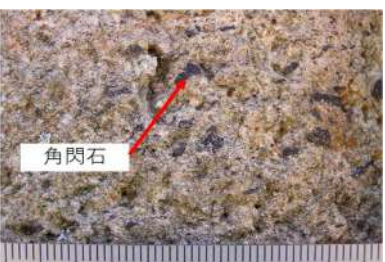
##### c.凝灰角礫岩・火山礫凝灰岩(産地:香川県西部)



これらは今から約1500万年前に西部讃岐の大規模な火山活動によって出来た堆積岩である。四国霊場八十八カ所第七十一番弥谷寺は、これらの岸壁を利用して建てられている。

#### ②安山岩(火山岩)

##### d.安山岩(産地:大分県北部)



灰色～やや乳白色。斑晶として細長い角閃石を含む。産地は、由布～鶴見岳火山群(35,000～6,000年前)や国東半島(宇佐火山類など)の古い岩石。

##### e.安山岩(産地:山口県南部)

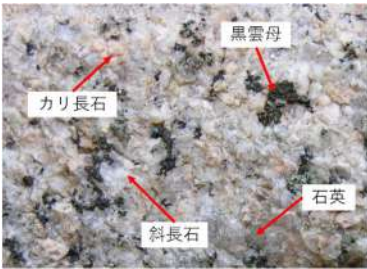


淡褐色～赤褐色。斑晶として角閃石および微量の斜長石を含む角閃安山岩。角閃石は自形～半自形の柱状～卓状の斑状組織を呈している。産地は津和野から周南市にかけての山口県青野火山群(100～10万年前)。



### ③花崗岩(深成岩)

#### f.花崗岩(産地:兵庫県六甲山、広島県南部)



長石、石英、黒雲母からなる。瀬戸内海沿岸には良質の花崗岩山地が多く、佐田岬半島には白亜紀後期(8,700~7,500 万年前)の兵庫県六甲山産と広島県南部産の花崗岩製石塔が搬入された。六甲山の花崗岩はピンク色のカリ長石が特徴的で、「本御影」とも呼ばれる銘石

#### 4. 石材が使われた時代(佐田岬半島) [参考]

石材が使われた時代を図で示しています。  
(著作権保護のため、表示していません。)

#### 5. 赤坂坊山石塔群のすごいところ

##### ①石塔の数、石材の種類の数

石塔の部材を407点、基数にすると100基以上が1カ所に集まっている。瀬戸内海沿岸などの広範囲からの受け入れられた例は極めて珍しい。

##### ②海の交差点(佐田岬半島の立地背景)

佐田岬半島が、いかに重要な役割を果たしていたことを物語っている。

##### ③中世都市の可能性

赤坂坊山の周辺地には、中世都市が形成されていたと推定される。

#### 6. なぜ地元の石材を使わなかったのか。

①佐田岬半島の地質を構成する結晶片岩は、堅くて丈夫だが摂理面に沿って剥がれやすく立体的な石塔を作るには不向きである。

②石塔の制作は、集団で行われるが技術を持った石工らが育たなかった。

③海上交通がさかんで、他地域の良品を受け入れるほうが合理的だった。

※佐田岬半島の立地条件を合理的に活用していたと言える。

#### IV. 岩石の見方 [赤坂坊山石塔群で]

組織を見る

→岩石を含むか

①角張った岩石片があるか→c.

②黄白色の基質で、わずかに花崗岩の粒があるか→a.

③灰色の基質で、つぶされてた軽石などがあるか→b.

→鉱物を含むか

④斑状組織か→d.または e.

⑤等粒状組織か→f.

磁石の付き具合はどうか

⇒石材の種類と産地を推定してみよう

#### V. 「磁石のつきかた」と帯磁率

石材と磁石のつき方に関してグラフで示しています。

(著作権保護のため、表示しておりません。)

物質に地場を与えると、物質は多かれ少なかれ磁石の性質を持つこととなります。これを「磁化」といい、その程度を示したものが「帯磁率」です。

簡単にいえば、『磁石がつきやすいか、つきにくい』を数値で

表したものです。数値が大きければ磁石がつきやすく、小さければ磁石がつきにくいこととなります。

#### V. おわりに

1. 佐田岬半島には、知られざる郷土資源、財産がたくさんある。
2. 佐田岬半島は、瀬戸内海と宇和海を仕切る日本一細長い半島だからこそ、その恩恵受けることができた。
3. 何気なく目に飛び込んできたものが、「どこから」「なんのため」「どうやって」などで、疑問を持つことによって『新たな発見』が得られる。
4. 家の周り、学校の周り、寮の周りなど身近な所を歩いて「宝物探し」をしてみよう。

以上